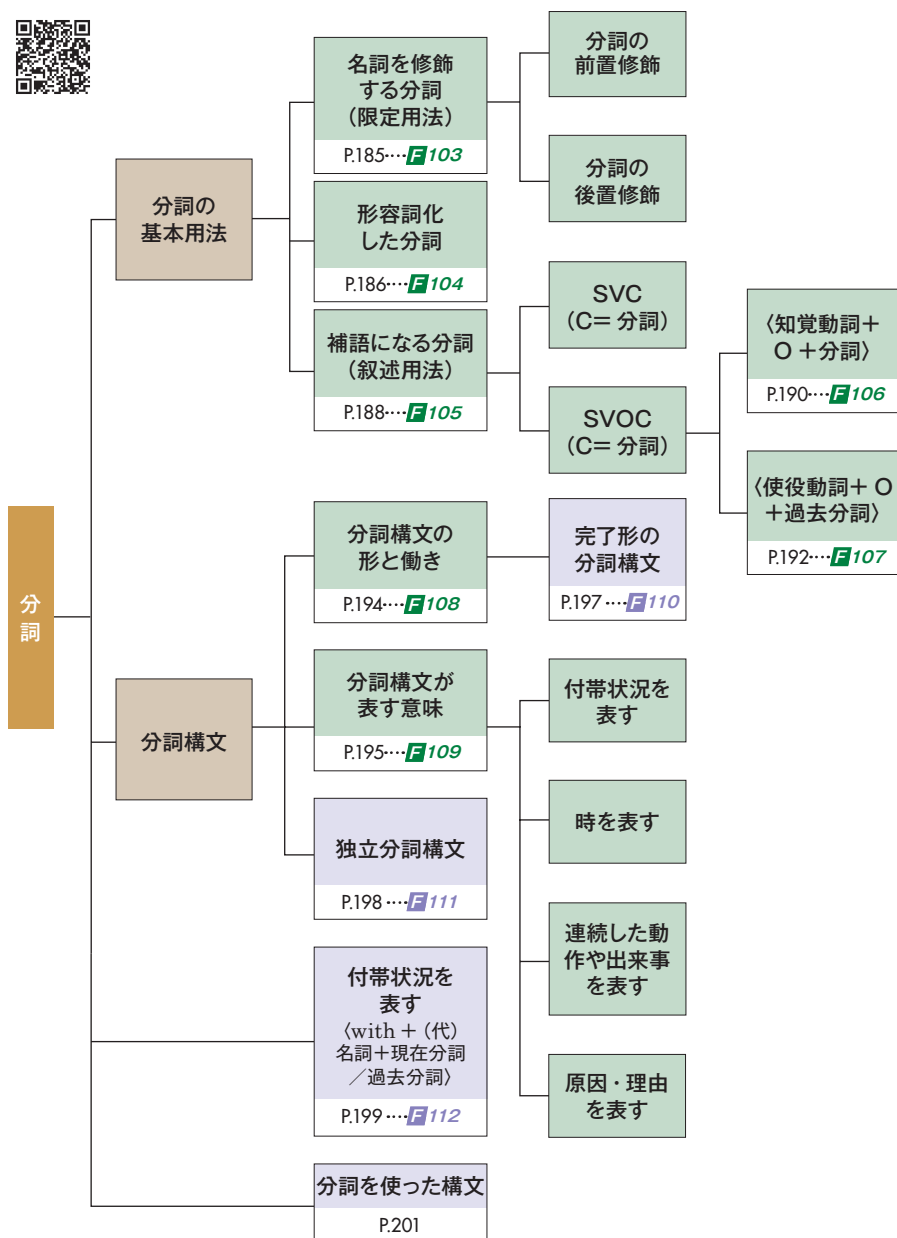




現在分詞と過去分詞の違い

現在分詞



a boy **painting** a picture
(絵を描いている男の子)

- 「男の子」が「描いている」
→「男の子」が動作を行う

過去分詞



a picture **painted** by the boy
(その男の子によって描かれた絵)

- 「絵」は「描かれる」
→「絵」は動作を受ける



分詞とは何ですか。

動詞が形を変えて**形容詞**として働くようになったものです。形容詞ですから名詞を修飾するとき用いることができます。種類は2つ、**現在分詞**と**過去分詞**です。



現在分詞と過去分詞、2つの違いは何ですか。

現在分詞は「～している」という**能動的**な意味を表します。
a boy () a picture (絵を描いている男の子) と言いたい場合、
painting と painted のどちらを用いますか。



「男の子」が「描く」ので、painting だと思います。

正解です。一方、**過去分詞**は「～された」という**受動的**の意味を表します。
a picture () by the boy (その男の子によって描かれた絵) と言いたい場合はどうですか。



「絵」は「描かれる」ので、過去分詞の painted です。

正解。修飾される名詞がその動作を**行う**なら**現在分詞**、動作を**受ける**なら**過去分詞**を使います。



分詞には現在分詞と過去分詞がある。分詞が形容詞の働きをして名詞を修飾し、その意味を限定することがある。この用法を**限定用法**という。現在分詞の場合、「～している、する」という能動の意味を表し、過去分詞の場合、「～される、された」という受動の意味を表す。

1. Firefighters entered the **burning** **house**. 250
消防士たちは燃えている家に入った。
2. Be careful of the **broken** **glass**. 割れたガラスに注意しなさい。 251
3. Do you know **the girl** **talking** to Sally? 252
サリーと話している少女を知っていますか。
4. They have **a son** **named** Chris. 253
彼らにはクリスと名付けられた息子がいる。

1. 2. 分詞 1 語の場合、普通は名詞の前に置かれる。1 の文では burning という現在分詞が house を、2 の文では broken という過去分詞が glass を修飾している。修飾される名詞と修飾する分詞の間には意味上の SV の関係がある。

the **broken** glass → the glass is broken (ガラスが割られる) [受動の意味]
S' V'

3. 4. 分詞が目的語や補語や副詞句を伴い、2 語以上の句(分詞句)である場合、例文のように分詞句は名詞の後ろに置かれる。3 の文では talking to Sally が直前の the girl を、4 の文では named Chris が直前の a son を修飾している。

3. Do you know the girl who is talking to Sally?
4. They have a son who is named Chris.

Focus 104 形容詞化した分詞

1. This will be an **exciting** game.

254

これははらはらする試合になるだろう。

2. There were a lot of **excited** fans in the train.

255

その列車の中には興奮したファンがたくさんいた。

分詞の形容詞化

分詞の中には、形容詞として用いられるようになったものがある。そのような形容詞化した分詞を**分詞形容詞**と呼ぶ。

感情に影響を与える他動詞は分詞形容詞になっているものが多い。現在分詞では「(人)を～させる」、過去分詞では「(人)～させられる」を意味する。

1. excite は「(人)を興奮させる」という意味の他動詞であるが、exciting と現在分詞で用いた場合、「(人)を興奮させる」という**能動**の意味になる。
2. excited と過去分詞で用いた場合、「(人)が興奮させられた」という**受動**の意味となる。

Focus
104



分詞形容詞は、補語としても用いられる。

The game will be **exciting**.

(その試合ははらはらするものになるだろう。)

The fans in the train were **excited**.

(その列車の中にいたファンたちは興奮していた。)

感情を示す形容詞化した分詞

- ☐ **exciting / excited** (興奮させる / 興奮した)
- ☐ **boring / bored** (退屈させる / 退屈した)
- ☐ **pleasing / pleased** (喜ばせる / 喜んで)
- ☐ **satisfying / satisfied** (満足させる / 満足した)
- ☐ **confusing / confused** (混乱させる / 混乱した)
- ☐ **disappointing / disappointed** (失望させる / 失望した)
- ☐ **surprising / surprised** (驚くべき / 驚いた)
- ☐ **amazing / amazed** (驚嘆すべき / 驚嘆した)
- ☐ **shocking / shocked** (衝撃的な / ショックを受けた)
- ☐ **interesting / interested** (興味深い / 興味を持った)
- ☐ **amusing / amused** (おもしろい / おもしろがっている)



Life is an exciting business, and most exciting when it is lived for others.

— Helen Keller

- { a **surprising** fact (人を驚かせる事実 → 驚くべき事実)
- { a **surprised** man (何かにより驚かされた男性 → 驚いた男性)
- { a **boring** speech (人を退屈させる話 → 退屈な話)
- { a **bored** person (何かにより退屈させられる人 → 退屈している人)

❗ **注意** : a boring person は「退屈させる人」→「退屈な人」の意味になる。

そのほか、形容詞化した分詞には次のようなものがある。

a **boiled** egg (ゆで卵), **fried** chicken (フライドチキン), **frozen** food (冷凍食品),
iced tea (アイスティー), **scrambled** egg (いり卵), a **used** car (中古車)

+ Plus α

自動詞の過去分詞と現在分詞

他動詞の過去分詞は「～された」と受動の意味を持つが、自動詞の過去分詞は受動ではなく完了の意味を表す。自動詞は目的語を伴わず、受動態をつくることができないからである。例えば, **fallen** leaves(落ち葉), a **retired** professor (退職した教授) などがある。一方、現在分詞は進行中であることを表す。

過去分詞



fallen leaves

落ちてしまった葉 → 落ち葉 (完了)

現在分詞



falling leaves

落ちつつある葉 (進行中)

9
分詞

入試に

Challenge

() に入る適切なものを選びなさい。

I feel () in Mr. Brown's lessons, since he is always using the same material.

- ① bored ② boring ③ interested ④ interesting

訳

ブラウン先生はいつも同じ教材を使っただけなので、授業は退屈だ。

Point

私が「退屈させられる」ので過去分詞になる。

解答 ①



人生とは、興奮に満ちている仕事のこと。最も興奮するのは、他人のために生きるとき。

ーヘレン・ケラー

Focus 105 補語になる分詞(叙述用法)

1. The mall will remain closed until Thursday. 256

S V C(過去分詞)

そのショッピングモールは木曜日まで閉まったままだろう。

2. He came running to us. 彼は私たちの所へ走ってやって来た。 257

S V C(現在分詞)

3. She kept me waiting for an hour. 彼女は私を1時間待たせた。 258

S V O C(現在分詞)

4. Keep the door locked at night. 259

V O C(過去分詞)

夜はドアの鍵を掛けたままにしておいてください。

SVC(C=分詞)

形容詞には a beautiful flower のような直接的に名詞を修飾する用法(限定用法)だけではなく、The flower is beautiful. のような補語として用いられる用法(叙述用法)がある。この用法で用いられた場合も、現在分詞は能動の意味を表し、過去分詞は受動の意味を表す。

1. the mall と closed は受動の関係。SVC の文型では主語と補語の間にイコールの関係があり、S と C を be 動詞で結ぶことができる。(the mall is closed)

2. he と running は能動の関係。(he was running)

SVC の形で C(補語)に分詞をとることができる自動詞は、次のように2つの種類に分けることができる。

- ① もともと補語を伴う自動詞が、補語として分詞を伴う。



補語が必要な動詞

- ☐ remain / stay (～のままでいる) ☐ keep (～し続ける) ☐ look (～に見える)
☐ feel (～に感じる) ☐ seem / appear (～のようだ)

▶ The girl **kept crying** for an hour. (その女の子は1時間泣き続けた。)

▶ He **felt tired** after the long drive. (長時間のドライブの後で彼は疲れを感じた。)

- ② 補語がなくても文が成り立つ動詞の後に、「～しながら」の意味で分詞を補語として続ける。

補語がなくても文が成立する動詞

- ☐ come (来る) ☐ walk (歩く) ☐ sit (座る)
☐ stand (立つ) ☐ lie (横になる)



Inspiration does exist, but it must find you working.

— Pablo Picasso

- ▶ She was **walking singing** her favorite song.

(彼女はお気に入りの歌を歌いながら歩いていた。)

- ▶ He **sat surrounded** by a lot of girls.

(彼はたくさんの女の子に囲まれて座っていた。)

SVOC(C=分詞)

keep は SVOC の文型で用いられた場合、「S は O を C の状態にしておく」という意味を表し、C(補語)に分詞が用いられることがある。O と C(分詞)の間には「O は C だ」という意味上の SV の関係が成り立つ。「O(目的語)が～している」という関係ならば現在分詞を、「O(目的語)が～される」という関係ならば過去分詞を用いる。

3. She kept **me waiting** for an hour.

S V O C
I was **waiting** (私は待っていた)

4. Keep **the door closed** at night.

V O C
the door is **closed** (ドアは閉められた)

SVOC(C=分詞)の形をとる動詞：☐ O doing / done

- | | |
|--|--|
| ☐ keep (O を C[の状態]にしておく) | ☐ leave (O を C[の状態]に放っておく) |
| ☐ find (O が C[の状態]であるとわかる) | ☐ want (O が C する「される」のを望む) |
| ☐ catch (O が C しているところを見つける) | |

- ▶ We'll **keep you informed** of new developments.

(新たな進展については逐一お知らせします。)

- ▶ Don't **leave anything half done**.

(何事も中途半端にしておいてはいけません。)

- ▶ I **found my girlfriend waiting** for me at the school gate.

(私はガールフレンドが校門の所で私を待っているのに気が付いた。)

- ▶ I **want the work finished** by tomorrow.

(その仕事を明日までに仕上げてもらいたい。)

- ▶ The teacher **caught him sneaking** into the classroom.

(先生は彼がこっそり教室に入るのを見つけた。)

入試に

Challenge

()に入る適切なものを選びなさい。

When I told Misako the news, she seemed ().

- ① surprising ② to have surprised ③ to surprise ④ surprised

訳

ミサコにその知らせを伝えた時、彼女は驚いているようだった。

Point

SVC(C=分詞)の文。彼女が「驚かされる」ので過去分詞になる。

解答 ④



インスピレーションは存在する。ただ、そのためには自分が働かなければならない。
—パブロ・ピカソ

1. I **saw** Steve **waiting** for a bus. 260

S V O C(現在分詞)

私は스티ーブがバスを待っているのを見かけた。

2. I **saw** the book **advertised** in the paper. 261

S V O C(過去分詞)

私はその本が新聞で広告されているのを見かけた。

〈知覚動詞＋O＋現在分詞〉

see(見る)などの知覚動詞はSVOC(C=分詞)の形をとることができる。Cが現在分詞の場合、OとCの間には能動の関係がある。

1. 〈see＋O＋現在分詞〉の形で「Oが～しているのが見える」という意味を表す。Oと現在分詞との間には「스티ーブが待っている」という能動の関係がある。

I **saw** Steve **waiting** for a bus.

S V

O C

Steve was **waiting** (스티ーブが待っていた)

〈知覚動詞＋O＋過去分詞〉

SVOC(C=分詞)でCが過去分詞の場合、OとCの間には受動の関係がある。

2. 〈see＋O＋過去分詞〉の形で「Oが～されるのが見える」という意味になる。Oと過去分詞との間には「本が広告された」という受動の関係がある。

I **saw** the book **advertised** in the paper.

S V

O C

the book was **advertised** (本が広告された)

知覚動詞：□ O doing / done

- **see** (O が～している[される]のが見える) □ **look at** (O が～している[される]のを見る)
 □ **watch** (O が～している[される]のをじっと見る)
 □ **hear** (O が～している[される]のが聞こえる) □ **listen to** (O が～している[される]のを聞く)
 □ **feel** (O が～している[される]のを感じる)
 □ **notice / observe** (O が～している[される]のに気づく)

- ▶ I heard **someone calling** my name.

(私は誰かが私の名前を呼んでいるのが聞こえた。)

- ▶ I heard **my name called**. (私は自分の名前が呼ばれるのが聞こえた。)

- ▶ I felt **my heart beating** wildly. (私は心臓が激しく鼓動しているのを感じた。)

- ▶ The boy felt **himself lifted** up. (少年は自分の体が持ち上げられるのを感じた。)

質問箱 Q&A

Q

- (1) I saw Tom crossing the street. と
(2) I saw Tom cross the street. の違いを教えてください。

A

現在分詞を使った場合、その動作の途中の一時点を見たことを表します。
動詞の原形(原形不定詞)を使った場合、その動作が始まってから終わるま
ですべてを見たことを表します(⇒Focus 089)。

知覚動詞 + O + **doing** : O が～しているのを…

知覚動詞 + O + **do** : O が～するのを…

- (1) I saw Tom crossing the street. (2) I saw Tom cross the street.
 現在分詞 原形不定詞



- (1) 「トムが通りを横切っているのを(途中をちらりと)見ました。」
(2) 「トムが通りを横切るのを(最初から最後まで)見ました。」

入試に

Challenge

下の語句を並べかえて文を完成させ、A、Bに入るものを答えなさい。

- (1) On weekends, Mr. Jones likes to () (A) () (B) () baseball.
① playing ② his grandchildren ③ watch ④ sit in the park ⑤ and
- (2) When I heard () (A) () (B) () home, I stopped immediately to
find out what was wrong.
① while ② the back of my car ③ a funny noise
④ coming from ⑤ driving

訳

(1) 週末、ジョーンズ氏は公園で腰を下ろし、孫たちが野球をしているのを見るのが好きです。(2) 家に車で帰る途中、おかしい音が車の後部から聞こえた時、何がおかしいのか調べるためにすぐに車を止めた。

Point

(1) 知覚動詞 watch は〈watch + O + C(分詞)〉の形になる。(sit in the park and watch his grandchildren playing) (2) 知覚動詞 hear は〈hear + O + C(分詞)〉の形になる。(a funny noise coming from the back of my car while driving)

解答 (1) A ⑤ B ② (2) A ④ B ①

Focus 107 〈使役動詞+O+過去分詞〉

1. She **had** [got] her hair **cut**. 彼女は髪を切ってもらった。 262
S V O C(過去分詞)
2. She **had** [got] her bag **stolen**. 彼女はバッグを盗まれた。 263
S V O C(過去分詞)
3. Can you **make** yourself **understood** in English? 264
S V O C(過去分詞)

英語で自分自身を理解させる→英語で自分の言いたいことを伝えられますか。

〈have [get]+O+過去分詞〉

〈have [get]+O+過去分詞〉は、過去分詞が表す行為をしてもらおうとする意志が主語にある場合は**使役**の意味を、ない場合は**被害**の意味を表す。

「使役」を表す

主語に意志がある場合は、「Oを～してもらう[させる]」という使役の意味を表す(⇒Focus 089, 2)。使役を意味する場合、have や get が強く発音される。

1. 「髪を切ってもらう」という使役の意味を表す。

She **hád** her hair **cut**.

her hair was **cut** (彼女の髪は切られた)



❗ **注意** 「彼女は髪を切ってもらった。」を × *She was cut her hair.* にはできない。

📖 **参考** get は口語的で《米》で使われる。

「被害」を表す

主語の意志とは関係ない場合は、「Oを～される」という被害の意味を表す。被害を意味する場合、過去分詞が強く発音される。

2. 「バッグを盗まれた」という被害の意味を表す。

She **had** her bag **stólen**.

her bag was **stolen** (彼女のバッグが盗まれた)



❗ **注意** × *She was stolen her bag.* と言うことはできない(⇒p.120 英作文のコツ)。

📖 **参考** 「突然の予期せぬ出来事」で被害を受けた場合、またそれが身体の一部である場合は have よりも get を使うことが多い。

I **got** my finger **caught** in the door. (私はドアに指をはさまれてしまった。)

〈make+O+過去分詞〉

3. 〈**make+O+過去分詞**〉の形で「Oを～されるようにする」を意味する。make *oneself* understood(自分自身を理解してもらう)や make *oneself* heard(自分の声を聞かせる)の慣用表現で使われることが多い。

▶ She couldn't **make herself heard** above the cheers.
(彼女の声は歓声にかき消されて聞こえなかった。)

+ Plus α

〈使役動詞+O+分詞〉のその他の用法

- (1) 〈**have [get]+O+過去分詞**〉「Oを(自分で)～してしまう」[完了]

I **had** my homework **done** over an hour ago.
(私は1時間以上も前に宿題をやり終えた。)

- (2) 〈**have [get]+O+現在分詞**〉「Oに～させる, ～させておく」

Oと現在分詞とは能動の関係で, ある一定期間続く動作を暗示している。

He **had** us all **laughing**. (彼は私たちみんなを笑わせた。)
getの場合は「～している状態にする」という変化を表す。

He **got** the engine **running**. (彼はエンジンを動かした。)

9
分詞

CROSSOVER

●使役動詞がとる形(⇒Focus 089)

	do	to do	done	doing
make	○	×	○	×
have	○	×	○	○
get	×	○	○	○
let	○	×	×	×

My mother **made me clean** my room.

[make O do]

(母は私に部屋の掃除をさせた。)

I couldn't **make myself understood** in English.

[make O done]

(私は英語で自分の言いたいことを伝えられなかった。)

I **had a cleaner clean** my room.

[have O do]

(私は掃除業者に部屋を掃除してもらった。)

I **had [got] my room cleaned**.

[have [get] O done]

(私は部屋を掃除してもらった。)

I couldn't **have [get] him laughing**.

[have [get] O doing]

(私は彼を笑わせることができなかった。)

I **got my sister to clean** my room.

[get O to do]

(私は姉[妹]に部屋を掃除してもらった。)

My father **let me go** to the party.

[let O do]

(父は私をパーティーに行かせてくれた。)

分詞構文

分詞が導く句が文を修飾する副詞の働きをするものを**分詞構文**と呼ぶ。「～しながら」「～なので」などと訳せるが、どのような意味を表すかは文脈によって決まる。分詞構文は一般的に書き言葉の表現であるが、話し言葉で用いられる用法もある。

Focus 108 分詞構文の形と働き

1. I walked around the town **taking** pictures. 265
写真を撮りながら、私は町を散策した。
2. **Written** in plain English, this book is easy to read. 266
わかりやすい英語で書かれているので、この本は読みやすい。
3. I just stood there, **not knowing** what to do. 267
何をしてよいかわからないまま、私はただそこに立っていた。

現在分詞を使った分詞構文

1. taking pictures が、I walked around the town を副詞句として修飾している。接続詞を用いた文は分詞構文で表現することができる。

<p>同じ時 I <u>walked</u> around the town</p> <p>同じ主語</p>	<p>and I <u>took</u> pictures.</p>
→ I walked around the town	<p><u>taking</u> pictures.</p> <p>①接続詞をとる ②主語をとる ③現在分詞にする</p>

- ▶ I was reading a book in the library **waiting** for my girlfriend.
(私はガールフレンドを待ちながら、図書館で本を読んでいた。)

過去分詞を使った分詞構文

2. written in plain English が this book is easy to read を修飾している。being が省略されて、過去分詞で始まる形になることが多い。

Because it **is written** in plain English, this book **is** easy to read.
→ (Being) **written** in plain English, this book is easy to read.
▶ **Tired** out, he went to bed early.
(疲れ果てていたので、彼は早めに寝た。)

分詞構文の否定形

3. 分詞構文を否定形にする場合、分詞の直前に not あるいは never を置く。
I just stood there **because I didn't know** what to do.
→ I just stood there, (not) **knowing** what to do.
▶ **Not invited** to the party, he felt very sad.
(パーティーに招待されなかったので、彼は悲しくなった。)

1. We sat up all night, talking on the phone. 268
電話で話しながら、私たちは夜を明かした。
2. Playing soccer, he hurt his leg. 269
サッカーをしている時に、彼は脚にけがをした。
3. The train leaves Nagoya at eight, arriving in Tokyo at ten. 270
その列車は8時に名古屋を出発し、10時に東京に着く。
4. Feeling sick, I went to see a doctor. 271
気分が悪かったので、私は医者に診てもらった。

付帯状況を表す分詞構文

分詞構文が「～しながら、～の状態で」という意味を表す。このような2つの動作が同時進行である状態を付帯状況と呼ぶ。付帯状況は分詞構文の中では最もよく使われる用法であり、話し言葉でも用いられる。

1. sat up と talking が同時に行われていたことを表す。

 参考 付帯状況を表す分詞構文は文末にくることが多い。

時を表す分詞構文

分詞構文が「～する時に、～している時に」という意味を表す。when や while などの接続詞を用いて書きかえることができる。

2. = **While** he was playing soccer, he hurt his leg.

連続した動作や出来事を表す分詞構文

分詞構文が「～して(それから)…する」という連続的な動作や出来事を表す。情報として重要なほうを主節に、軽いほうを分詞構文にする。and を用いて書きかえることもできる。この用法の場合、分詞構文の前にコンマが置かれることが多い。

3. = The train leaves Nagoya at eight **and** arrives in Tokyo at ten.

原因・理由を表す分詞構文

分詞構文が「～なので、～だから」という原因や理由を表す。because, since, as などの接続詞を用いて書きかえることができる。

4. = **Because [Since, As]** I felt sick, I went to see a doctor.

 参考 分詞構文が「条件」「譲歩」を表すこともある。

Understanding this problem, he will change his mind. [条件]

(この問題を理解すれば、彼は考えを変えるだろう。)

Discouraged, he didn't give up his dream. [譲歩]

(落胆したものの、彼は夢をあきらめなかった。)





参考

分詞構文が being の場合, being が省略され, 形容詞・名詞で始まることがある。

(Being) unable to solve the problem, I went to bed.

→ **Unable to solve the problem**, I went to bed.

(その問題が解けないまま, 私は寝た。)



Plus

分詞構文は文中にくることも多い。

The girl, **closing** her eyes, listened to the music.

(その女の子は目を閉じて音楽を聞いた。)

+ Plus

α

〈接続詞＋分詞構文〉

分詞構文は主節と分詞構文との関係が明確ではない表現である。分詞構文の意味をはっきりさせるために, 分詞の前に接続詞を置くことがある。

We need to speak slowly **when we talk** to elderly people.

→ We need to speak slowly **talking** to elderly people.

→ We need to speak slowly **when talking** to elderly people.

(お年寄りと話をする時は, ゆっくりと話すことが必要です。)

ただし, since や because など理由を表す接続詞はこの用法で用いられることはない。(× *Because being sick ...*)

次のような場合は, 〈主語＋be 動詞〉の省略とも考えられる。

Bill hit on a good idea **while (he was) waiting** for a bus.

(ビルはバスを待っている間に, いい考えを思いついた。)

入試に

Challenge

()に入る適切なものを選びなさい。

(1) () that he had a talent for languages, he decided to train as an interpreter.

① Being realized ② Realize ③ Realizing ④ To realize

(2) Not () which course to take, I decided to ask for advice.

① being known ② to know ③ known ④ knowing

訳

(1) 言語の才能があることに気付いたので, 彼は通訳の訓練を受けることにした。

(2) どちらのコースを取ればいいのかわからなかったので, 私はアドバイスを求めることにした。

Point

(1) realize は「～に気付く」という意味で, 受動態にする必要はない。(2) 分詞構文の否定形。分詞の前に not がくる。分詞構文の意味上の主語の I と動詞 (know) は能動の関係なので現在分詞が入る。

解答 (1) ③ (2) ④

Focus 110 完了形の分詞構文

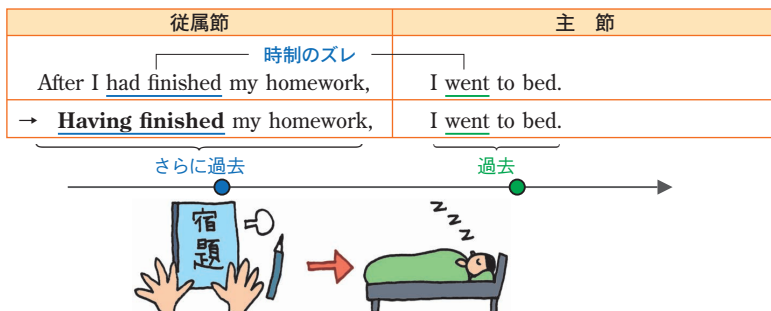
Having finished my homework, I went to bed.

272

宿題を終えてから、私は寝た。

〈having＋過去分詞〉

分詞構文の表す内容が、主節の動詞が表す時よりも「前」の時である場合は、
 〈having＋過去分詞〉という**完了形の分詞構文**となる。



完了形の分詞構文の否定形は、分詞の前に not や never を置いた〈not [never] having＋過去分詞〉の形になる。

▶ **Not having received** his reply, Lisa sent an email to him again.

(返事を受け取っていなかったため、リサはもう一度、彼にEメールを送った。)



参考 受動態の分詞構文が完了形の場合、〈having been＋過去分詞〉の形になるが、文頭の having been は省略することができる。

Because he was born in Paris, he is good at French.

→ (Having been) **born** in Paris, he is good at French.

(彼はパリで生まれたので、フランス語が得意だ。)

入試に

Challenge

()に入る適切なものを選びなさい。

() several magazine articles on the theme, I was able to understand the presentation perfectly.

- ① Had read ② Has read ③ Have read ④ Having read

訳

そのテーマについて雑誌の記事をいくつか読んでいたので、その発表を完璧に理解できました。

Point

〈having＋過去分詞〉の形になる。

解答 ④

独立分詞構文

- 273

休暇シーズンなので、列車はいっぱいだった。

- 274

この写真から判断すると、彼はとても背が高い。

分詞の前に意味上の主語を置く

分詞構文の主語が主節の主語と一致しない場合、意味上の主語を明確にするために、分詞の前に意味上の主語を置く。このような分詞構文を**独立分詞構文**と呼ぶ。

1. being の意味上の主語は時を表す it であり、主節の主語 the train と一致しない。

従属節	主 節
Because <u>it</u> was the holiday season, <div style="text-align: center;"> 異なる主語 </div>	<u>the train</u> was full.
→ <i>It being</i> the holiday season,	<u>the train</u> was full.

過去分詞の場合、being は省略されることが多い。

If *all things* **are considered**, *Nick* is doing very well.

→ All things (being) **considered**, *Nick* is doing very well.

(すべてを考慮に入れると、ニックはとてもうまくやっている。)

Focus
111
|
112

注意

there is ... の分詞構文は there being ... の形になる。being の直後の語が分詞構文の意味上の主語だが、there はそのまま残る。

Because *there* **was** nothing to do, *I* went to bed.

→ *There **being** nothing to do, I went to bed.*

(何もすることがなかったので、私は寝た。)

慣用的な独立分詞構文

主節の主語と分詞構文の意味上の主語が違ってもかかわらず、分詞構文の意味上の主語を明示しない慣用的な独立分詞構文がある。意味上の主語が「不特定多数の人々」や「話者」などで、わざわざ明示しなくてもわかるためである。

2. judging の意味上の主語は話者(I)であり，明示しなくても相手にわかる。

If *I* **judge** from this picture, *he* is very tall.

→ **Judging** from this picture, *he* is very tall.

- ☐ **judging from [by] ~** (～から判断すると) ☐ **considering ~** (～を考慮すれば)
☐ **generally [frankly, strictly, roughly] speaking**
 (一般的に「率直に、厳密に、大ざっぱに」言えば)
☐ **speaking [talking] of ~** (～と言えば) ☐ **depending on ~** (～によって)
☐ **provided [providing, supposing] (that) ...** (もし…ならば) (⇒p.364 CROSSOVER)
☐ **granted [granting] (that) ...** (仮に…だととしても) ☐ **given (that) ...** (…を考慮すると)
☐ **weather permitting** (天気が許せば) ☐ **compared with [to] ~** (～と比較すると)
☐ **taking ~ into consideration** (～を考慮に入れると)

- ▶ **Considering** his age, Bob did well. (年齢を考えれば、ボブはよくやったよ。)
 ▶ **Generally speaking**, Americans are friendly.
 (一般的に言えば、アメリカ人は親しみやすい。)
 ▶ **Speaking of** your brother, is he still in London?
 (お兄さんと言えば、まだロンドンにいるのかい。)
 ▶ The game may be put off **depending on** the weather.
 (天候次第で試合は延期されるかもしれない。)
 ▶ **Provided (that)** he leaves now, he will be safe.
 (もし彼が今出発するならば、安全だろう。)
 ▶ **Granted (that)** it is a difficult situation, we can still solve it.
 (仮に難しい状況だととしても、それでも私たちは解決できる。)
 ▶ **Weather permitting**, we will have a barbecue.
 (天気が許せば、私たちはバーベキューをします。)
 ▶ **Taking all things into consideration**, it was a wise decision.
 (すべてのことを考慮に入れると、それは賢明な決断だった。)

〈with+O+分詞〉

〈**with+O+分詞**〉で主節に対して補足的に説明を付け加え、「～が…している状態で、…したまま」という**付帯状況**を表すことができる。with の後の名詞や代名詞は分詞の意味上の主語の働きをしている。現在分詞がくるか過去分詞がくるかは、意味上の主語と分詞が能動の関係か受動の関係かによって決まる。

Focus 112 付帯状況を表す〈with+ (代) 名詞+現在分詞/過去分詞〉

1. He waited for her to come back **with the engine running**. 275
 車のエンジンをかけたまま、彼は彼女が戻ってくるのを待った。
2. The woman was sitting **with her legs crossed**. 276
 その女性は脚を組んで座っていた。



〈with+O+現在分詞〉

1. 「O が～している状態で」を表す。with の後の the engine は分詞 running の意味上の主語。the engine と running は能動の関係。

He waited for her to come back **with** the engine running.

the engine was running

(エンジンが作動していた)



〈with+O+過去分詞〉

2. 「O が～された状態で」を表す。with の後の her legs は分詞 crossed の意味上の主語。her legs と crossed は受動の関係。

The woman was sitting **with** her legs crossed.

her legs were crossed

(脚が組まれた)



付帯状況を表す〈with+O+α〉

付帯状況を表す〈with+O+α〉のαには現在分詞・過去分詞だけでなく、形容詞・副詞・前置詞句がくる場合もある。

Don't talk **with** your mouth full. [形容詞]

(口の中をいっぱいにしてしゃべってはいけない。)

I fell asleep last night **with** the TV on. [副詞]

(昨夜はテレビをつけたまま眠ってしまった。)

He stood **with** his hands in his pockets. [前置詞句]

(彼は両手をポケットに入れたまま立っていた。)

+ Plus α

英作文の **コツ**

「～しながら」の表し方

問題 私はコーヒーを飲みながらバスを待っていた。

解答 I was waiting for the bus drinking coffee.

解説

「～しながら」という付帯状況を表すときに with doing とはしない (× with drinking coffee)。with を使うならば〈with+O+doing〉の形になり、with と doing の間に O が入る (⇒Focus 112)。この問題では、バスを待っていたのもコーヒーを飲んでいたので「私」なので、I was waiting for the bus と I was drinking coffee を分詞構文を使ってつなぎ、I was waiting for the bus drinking coffee. とすればよい。

分詞を使った構文

1 There is S *doing* / *done* S が～している / されている

There were some boys **playing** soccer on the field. 277

運動場では少年たちがサッカーをしていた。

There are only two days **left** until the school festival. 278

学園祭まで2日しか残されていない。

〈There + be 動詞 + 主語〉は初めて話題に出るものの存在を知らせる表現(⇒Focus 014)。主語の後に現在分詞や過去分詞を続けて主語の状況を表す。現在分詞の場合は進行形で、過去分詞の場合は受動態でほぼ同じ意味を表すことができる。

= Some boys **were playing** soccer on the field.

= Only two days **are left** until the school festival.

2 go *doing* ～しに行く

We **went skiing** in Nagano. 私たちは長野へスキーをしに行った。 279

go *doing* は「～しに行く」という意味になる。ほかに go shopping (買い物に行く), go swimming (泳ぎに行く), go fishing (釣りに行く) など。

注意 go *doing* の後にくる場所は「行き先」ではなく、「動作をする場所」なので、方向を表す to ではなく(× *to Nagano*), 場所を表す in や at などの前置詞を伴う。

3 be busy (in) *doing* ～するのに忙しい

He **is busy preparing** for the exam. 彼は試験の準備をするのに忙しい。 280

4 have difficulty [trouble] (in) *doing* ～するのに苦勞する

I've **had** some **difficulty doing** the work. 281

私はその仕事をするのにややてこずった。

5 spend O (in) *doing* ～してO(時間・金・労力)を費やす

I **spent** an hour **chatting** on the phone. 282

私は電話で話をして1時間を過ごした。



1. 準動詞の種類と働き

不定詞・動名詞・分詞の3つを準動詞という。これら3つは「動詞」が形を変えたものである。動詞と同じような性質を持ちながら、動詞にはない働きをする。動詞に準ずるものなので準動詞と呼ばれる。

2. 動詞にはない働き

不定詞・動名詞・分詞は、それぞれ次のように、名詞・形容詞・副詞の働きをする。

	不定詞 (to do)	動名詞 (doing)	分詞 (doing/-ed)
① 名詞の働き	○	○	×
② 形容詞の働き	○	△	○
③ 副詞の働き	○	×	○(分詞構文)

① 名詞の働きをする準動詞：不定詞 動名詞

名詞と同じ働きをし、文の中で主語・補語・目的語となる。動名詞は前置詞の目的語にもなるが、不定詞は前置詞の目的語にはならない。

不定詞 It's important to get enough sleep. (十分な睡眠をとることが大切だ。) 181
S [真主語]

Her dream is to be a singer. (彼女の夢は歌手になることだ。) 182
C [補語]

I hope to go to university. (私は大学に行くことを希望しています。) 183
O [目的語]

動名詞 Playing basketball is fun. (バスケットボールをすることは楽しい。) 225
S [主語]

My favorite pastime is watching movies. 226
C [補語]
(私のいちばん好きな娯楽は映画を見ることです。)

I like listening to music. (私は音楽を聴くことが好きです。) 227
O [目的語]

Thank you for coming today. (今日は来てくれてありがとう。) 228
[前置詞の目的語]

② 形容詞の働きをする準動詞：不定詞 分詞

不定詞と分詞は形容詞と同じ働きをし、名詞を修飾する。

不定詞 Luckily, he had **friends to help him**. 185
 ↑ (幸運なことに、彼には助けてくれる友人がいた。)

分詞 Firefighters entered the **burning house**. 250
 ↑ (消防士たちは燃えている家に入った。)

Be careful of the **broken glass**. 251
 ↑ (割れたガラスに注意なさい。)

Do you know **the girl talking to Sally**? 252
 ↑ (サリーと話している少女を知っていますか。)

They have **a son named Chris**. 253
 ↑ (彼らにはクリスと名付けられた息子がいる。)

！注意 動名詞には形容詞的な働きもあるが、実際は(動名詞+名詞)でひとかたまりの名詞として扱われる(⇒p.175 CROSSOVER)。

There were a lot of people in the **waiting room**. [動名詞]
 (待合室にはたくさんの人々がいた。)

準動詞のまとめ

③ 副詞の働きをする準動詞：不定詞 分詞

不定詞と分詞は副詞と同じ働きをし、文の中で動詞・形容詞・副詞や文全体を修飾する。分詞が副詞の働きをするのは分詞構文の場合である。

不定詞 I **got up** early **to catch** the 6:30 train. [動詞を修飾] 189
 ↑ (私は6時30分の列車に乗るために早く起きた。)

The problem is **easy to solve**. [形容詞を修飾] 210
 ↑ (その問題を解くのは簡単だ。)

To tell the truth, **I woke up late this morning**. [文全体を修飾(独立不定詞)] 219
 ↑ (実を言うと、今朝は寝坊したのです。)

分詞 **Judging from** this picture, **he is very tall**. [文全体を修飾(分詞構文)] 274
 ↑ (この写真から判断すると、彼はとても背が高い。)

3. 動詞と同じような性質

① 準動詞は目的語や補語、修飾語を伴う

準動詞(V')は、目的語(O')や補語(C')、修飾語(M')を伴うことができる。

不定詞	Her dream is <u>to be</u> <u>a singer</u> . (彼女の夢は歌手になることだ。)	182
動名詞	<u>Playing</u> <u>basketball</u> is fun. (バスケットボールをすることは楽しい。)	225
分詞	Do you know the girl <u>talking</u> <u>to Sally</u> ? (サリーと話している少女を知っていますか。)	252

② 準動詞は意味上の主語を持つ

文の主語と準動詞の主語が異なる場合は、準動詞(V')の意味上の主語(S')が示される。主語が同じ場合や主語が明らかな場合は明示されない。準動詞の意味上の主語は、準動詞の直前に置く。

不定詞 It's dangerous for the children to stay here. 193
 (子どもたちがここにとどまるのは危険だ。)
 It was kind of you to help me. 194
 (ご親切にも助けてくださり、ありがとうございました。)
 I want you to come to tomorrow's party. 195
 (私はあなたに明日のパーティーに来てほしい。)

動名詞 My mother doesn't like me [my] wearing short skirts. 229
 (母は私がミニスカートをはくのが好きではない。)

分詞 She kept me waiting for an hour. 258
 (彼女は私を1時間待たせた。)

It being the holiday season, the train was full. 273
 (休暇シーズンなので、列車はいっぱいだった。)

③ 準動詞には完了形がある

動詞と同じように、準動詞にも完了形がある。準動詞が完了形になるのは、準動詞の表す動作や状態が、述語動詞の表す時よりも「前の時」である場合。

不定詞 He seems **to have been** ill. 206
(彼は病気だったと思われる。)

動名詞 She is proud of **having been** a nurse. 234
(彼女は看護師だったことを誇りに思っている。)

分詞 **Having finished** my homework, I went to bed. 272
(宿題を終えてから、私は寝た。)

④ 準動詞には否定形がある

準動詞には否定形がある。完了形の否定形もある。準動詞の直前に not や never を置く。

不定詞 She told me **not to be** late. 198
(彼女は私に遅れないようにと言った。)

動名詞 I'm sorry for **not writing** sooner. 231
(もっと早く手紙を書かなくてすみません。)

分詞 I just stood there, **not knowing** what to do. 267
(何をしてよいかわからないまま、私はただそこに立っていた。)

⑤ 準動詞には受動態がある

準動詞は受動態をつくることができる。完了形の受動態もある。

不定詞 Children need **to be accompanied** by an adult. 209
(子どもは大人に同行してもらう必要がある。)

The stone seems **to have been used** in the sixth century. [完了形]
(その石は6世紀に使われていたと思われる。)

動名詞 My little sister is tired of **being treated** like a child. 236
(私の妹は子ども扱いされることにうんざりしている。)

She is angry at **having been called** by that nickname. [完了形]
(彼女はそのあだ名で呼ばれたことに怒っている。)

分詞 (**Being**) **written** in plain English, this book is easy to read. 266
(わかりやすい英語で書かれているので、この本は読みやすい。)

準動詞が持つ基本イメージ

不定詞 基本イメージ：「これから～する」

- (1) I'd like **to go** fishing. [名詞句]
(私は釣りに行きたい。)
- (2) He has friends **to help** him. [形容詞句]
(彼には助けてくれる友人がいる。)
- (3) I turned on the TV **to watch** the news. [副詞句]
(私はニュースを見るためにテレビをつけた。)



動名詞 基本イメージ：「実際に～する[した]」

- (4) She enjoys **playing** tennis every weekend. [名詞句]
(彼女は毎週末、テニスをして楽しむ。)
- (5) I finished **washing** the dishes. [名詞句]
(私は皿洗いを終えた。)



現在分詞 基本イメージ：「～している」

- (6) Firefighters entered the **burning** house. [形容詞]
(消防士たちは燃えている家に入った。)
- (7) Do you know the girl **talking** to Sally? [形容詞句]
(サリーと話している少女を知っていますか。)
- (8) He was lying on the sofa, **reading** a book.
(彼は本を読みながら、ソファーに寝転がっていた。) [副詞句]



過去分詞 基本イメージ：「～された, ～してしまった」

- (9) There are a lot of **fallen** leaves in the garden. [形容詞]
(庭にはたくさんの落ち葉がある。)
- (10) She bought a pair of shoes **made** in Italy. [形容詞句]
(彼女はイタリアで作られた靴を買った。)
- (11) **Educated** in the U.S., she became an English teacher in Japan. [副詞句]
(アメリカ合衆国で教育を受けてから、彼女は日本で英語の教師になった。)

